

ウズベキスタン

主要データ

国名〔英名〕	ウズベキスタン共和国〔Republic of Uzbekistan〕
面積(km ²)	447,400
海岸線延長(km)	0(ただし、Aral 海は 420km)
人口(百万人)	27.9
人口密度(人/km ²)	62.4
GDP(百万 US\$)	32,816
一人当り GDP(US\$)	1,176
主要鉱産物：鉱石	銅、金、タングステン、ウラン
主要鉱産物：地金	銅、亜鉛、セレン、テルル
鉱業管轄官庁	国家地質・鉱物資源委員会
鉱業関連政府機関	国家財産委員会
鉱業法	地下資源法
外資法	外国投資法、投資法、外国投資保証・保護法
環境規制法（環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等）	環境保護法、廃棄物法等(環境影響評価制度あり)
鉱業公社	NGMK、AGMK
近年の鉱業関連問題（資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等）	近年、欧米との関係が悪化してきたところ、ロシア、韓国、中国企業の進出が盛んになってきている。日本企業もウラン等の JV 設立に向けた協議を行っており、JOGMEC もウラン・レアメタル調査を実施中
2009 年のトピックス	近年、ロシア、韓国、中国、日本企業等がウラン、レアメタル等の探鉱事業を実施してきたところ、2009 年には中国企業が外資初のウラン探鉱 JV を設立した。JOGMEC は、2009 年にはウラン調査を、2010 年にはレアメタル調査を実施予定

1. 鉱業一般概況

ウズベキスタン共和国の主要非鉄金属資源は、金、モリブデン、タングステン、銅、鉛、亜鉛、銀、セレン、ウランと言われており、埋蔵量では、モリブデンが世界第 11 位、ウランが第 12 位、生産量では、ウランが世界第 7 位、テルルが第 8 位、金が第 9 位となっている。

鉱物資源の探鉱開発では、旧ソ連時代から国営企業が担ってきたが、1995 年以降、大規模金鉱山を除く鉱業関係主要企業の民営化、一部金鉱山やウラン鉱山への外資参入の動きが出てきている。

2005 年のアンデジャン反政府暴動事件以降、欧米諸国との関係は悪化した。2006～2007 年にかけて、米 Newmont Mining(米)の金プロジェクト Zarafshan はじめ、幾つかの欧米系のプロジェクトが税制変更に伴い破産宣告、税追徴などの影響を受けたが、こうした動きは、アンデジャン事件に対する欧米の人権批判に対応したものとも言われている。

このような、西側や国際金融機関からの投資・支援が期待しにくい状況の中で、ロシア、韓国、中国などが

らの資本流入(非鉄金属に関する資産民営化や調査・採掘分野への投資など)の動きが活発化している。

ウラン分野では、ロシア(ARMZ社(旧 Tekhsnabexport社(国営))他、韓国(Kores: Korea Resources Corporation(国営))、中国(CGNPC: China Guangdong Nuclear Power Holding Corp.(民間原子力事業者))が、ウランの探査活動を行っている。Koresは、2008年5月には、地質・鉱物資源委員会(以下、「地質委員会」。)とSamarkand地方のTym-Kaltasayタングステン鉱床の共同探査を実施することでも合意している。

こうした中、我が国も2007年4月、甘利経済産業大臣・JOGMEC等の訪問時の基本合意の下、現在、ウラン(2009年)及びレアメタル(2010年)に関する調査を実施していることを始め、2008年7月以降、我が国企業と地質委員会との間でウラン鉱床開発について3件が基本合意に至っている。また、2008年8月には、日・ウズベキスタン投資協定が署名されている。

一方、欧米との関係についても、2007年5月、2008年10月と相次いでEUがウズベキスタンに対し課していた制裁措置を緩和するなど、関係が徐々に好転してきている。

2. 鉱業政策の主な動き

ウズベキスタンでは、地下資源は、国家の、独占的な所有物であり、外国人及び外国資本による企業等はこれを利用できると規定されている。また、鉱物資源に関連する法令は、地下資源法のほか、許認可法、生産分与協定(PSA)法などが制定されている。地下資源法では、地下資源の採掘ライセンス取得のための手続きを始め、地下資源の所有権や利用、権限ある機関などに関する規定が設けられている。また、許認可法では、国家地下資源・鉱物資源委員会における採掘権、地表利用権等の譲受に係る入札や直接交渉の規定が設けられている。

さらに、生産分与協定法には、石油、ガス、鉱物資源等の探査、探鉱、搾取に係る政府と投資家間の生産分与協定に係る締結、執行、協定期間等に関する規定が定められている。この協定の下、事業者は、補償を条件として、限られた期間に独占的権利を与えられる。また、事業者には、税制上の恩恵が与えられる代わりに、生産量又は売上げの一定比率の譲渡のほか、ロイヤルティ及びボーナスの提供が求められる。また、事業者は、生産量を割当制限なく輸出可能であるほか、同国の法令が改正されたとしても契約期間中は協定が優先される、国際調停への申し立て可能などの権利が認められている。

2006年後半に、外国企業が投資時に付与された免税に近い税特典が廃止され、さらには、過去に遡り追徴されるという事態が生じ、Newmont(米)及びOxus(英)との間で係争が生じている。この結果、Newmont社とNGMKのJV会社は破産を申し立て、2007年7月、同JVの権益をNGMK社が100%引き継ぐ形で、Newmont社は撤退した。

2009年には、外国企業に対する生産物分与契約(PS契約)の条件が変更され、契約上利益在、土地税、水資源利用税等が明記されていない場合であっても同国企業と同様に納税義務が生じ、地下資源利用税(ロイヤルティ)についても同国企業と同率と変更になった。なお、PS契約中の事業者には10年間の猶予期間が設けられる予定である。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要非鉄金属鉱石生産量

表1. ウズベキスタンの鉱石生産量

(単位: t)

鉱種	2007年	2008年	2009年	2009年増減比(%)
銅(千t)	103.5	103.5	80.0	-22.7
金	72.9	73.2	73.2	0.4
銀	150.0	150.0	150.0	0.0

タングステン	300.0	300.0	300.0	0.0
ウラン	2,320	2,300	2,350	2.2

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2010)

(2) 主要非鉄地金生産量

表 2. ウズベキスタンの地金生産量

(単位：t)

鉱種	2007年	2008年	2009年	2009年増減比(%)
銅(千t)	115.0	115.0	80.0	-30.4
亜鉛(千t)	72.0	70.0	69.6	-0.6
セレン	20.0	20.0	20.0	0.0
テルル	10.0	10.0	10.0	0.0

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2010)

(3) 主要非鉄地金消費量

表 3. ウズベキスタンの地金消費量

鉱種	2007年	2008年	2009年	2009年増減比(%)
銅(千t)	35.7	35.7	29.6	-17.1
亜鉛(千t)	9.6	9.6	0.8	-91.7

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2010)

(4) 主要非鉄金属輸出量

データなし

(5) 主要非鉄金属輸入量

データなし

4. 鉱山・製錬所状況

表 4. 鉱山一覧

鉱山 (プロジェクト)名	権益所有企業 (権益：%)	鉱種	生産量	備考
Muruntau	NGMK : Navoi Mining and Metallurgical Combine (100%)	金	1,800 千 oz (56.0t)	・ いずれの鉱山も製錬所併設 ・ 生産量：2008年(Muruntau)、 2007年(Kokpatas)、2006年 (Zarafshan) ・ Zarmitan は 2011年生産開始 予定
Mardzanbulk			-	
Kokpatas			353 千 oz (11.0t)	
Zarafshan			124 千 oz (3.9t)	
Zarmitan			開発中	
Amantaytau Oxide	Oxus Gold PLC (英) (50%) NGMK (10%) 国家地質委員会	金	48 千 oz (1.5t)	生産量：2008年

	(40%)			
Almalyk Complex	AGMK: Almalyk Mining and Metallurgical Complex (100%)	銅	82.5 千 t	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 鉱山企業、2 選鉱場、2 製錬所からなる国営企業 ・ 銅・モリブデン鉱山：Kalmakyr、Sary-Cheku 金鉱山：Kauldy、Chadak、Angren 鉛亜鉛鉱山：Uch-Kulach ・ 生産量：2009 年
		モリブデン	-	
		鉛	-	
		亜鉛	19.1 千 t	
		金	-	
Northern Mining District	NGMK: Navoi Mining and Metallurgical Combine (100%)	ウラン	6.1 百万 lb (2.8t) 3 鉱山合計	<ul style="list-style-type: none"> ・ Navoi 市の北約 300km ・ 主要鉱山：Uchkuduk、Kendykijube ・ 生産量：2008 年
Central Mining District				<ul style="list-style-type: none"> ・ Zafarabad (Navoi 市近郊) ・ 主要鉱山：North & South Bukinai、Beshkak、Lyavlyakan、Tokhumbet
Southern Mining District				<ul style="list-style-type: none"> ・ Samarkand ・ 主要鉱山：Sabirsay、Ketmench、Shark、Ulus
Northern Kanimeh			開発中	<ul style="list-style-type: none"> ・ Navoi 市の北西 ・ 2009 年 1 月、生産準備段階。
Dzhantuar	Kores: 大韓鉱業振興公社 (50%) 国家地質委員会 (50%)	ウラン	開発中	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2003 年合意、2007 年 FS ・ 2011 年生産開始予定



図 1. ウズベキスタンの主要鉱山・製錬所位置図

5. 探鉱状況

JOGMEC は、2007 年 4 月のウラン・レアメタル共同調査に関する MOU に基づき、2009 年には黒色頁岩型のウラン鉱床の調査を実施した。また、2010 年 4 月、ガニエフ副首相及びトウラムラトフ地質委員会議長代行の来日の際に、バヤンカラ地域(ウズベキスタン南部・サマルカンドの南西 100km に位置)におけるレアメタルの共同調査の実施についての協定書を締結し、2010 年度から共同調査を開始している。なお、上記以外には、JOGMEC は、1994～1999 年度に金鉱山に関する 2 件の資源開発協力基礎調査を実施するとともに、JOGMEC からのウラン探鉱支援助成金を活用して、伊藤忠商事(株)が地質委員会との JV に基づき、黒色頁岩型ウラン鉱石からウランとバナジウムの回収実験を実施した(2007-9 年度)。ウラン開発に関して、韓国、ロシア、中国との間で JV 設立等のプロジェクトが進められている。

(1) Korea Resources 社(Kores : 大韓鉱業振興公社)、Shindong Enercom 社、Luxon 社

2003 年、韓国の Kores 社は、ウズベキスタン政府(地質委員会)と共同で 50:50 の JV を設立し、ウラン探査を行うことで基本合意した。2006 年に Kyzylkum 地方の Dzhantuar での探査を行った結果、15,000t のウランの埋蔵量を確認しており、2007 年 4 月、プレ FS を完了し、現在、JV 企業設立の交渉に移行している。本プロジェクトは、2011 年までに商業生産に移行し、400t/年の生産を見込んでいる。また、Kores 社は、2008 年 5 月には、地質委員会と Samarkand 地方の Tym-Kaltasay タングステン鉱床の共同探査を実施することで合意している。

また、韓国の Shindong Enercom 社とウズベキスタン地質委員会は、2010 年中にも、Shavazsai リチウム鉱床の探鉱開発のための JV を予定しており、また、Sautbai・Yakhton フィールドのタングステン

鉱床開発も検討中である。なお、両者は、2008年8月、クォーツ鉱山開発のための Uz-Shindong SiliconJV を設立している。

また、韓国の Luxon Energy Holdings 社も、地質委員会と Ingichki タングステン鉱山の再開発について JV の設立を検討中である。

(2) China Guangdong Nuclear Power Co (CGNPC:中国广东核电集团)

2009年8月、ウズベキスタン政府(地質委員会)は、CGNPC Uranium Resources Co Ltd (CGNPC の子会社) と Navoi 地域の Boztau ウラン鉱山を探鉱する JV、Uz-China Uran を設立した。本 JV は、特別な政府の決定により承認されたもので、海外との初のウラン探鉱 JV である。両社の出資比率は 50:50、出資額は 4.6 百万 US\$、探鉱ライセンス期間は 3 年で、中国側は資金と設備を、ウズベク側が地質・地質物理学等の情報提供を担当する予定で、開発が難しいとされる黒色頁岩型ウラン鉱山の開発を目指している。

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

表 5. ウズベキスタンの日本への精鉱/地金輸出量

鉱種	2007 年	2008 年	2009 年	2009 年増減比 (%)
金地金 (kg)	6,936	11,908	3,468	-70.9

(出典：財務省貿易月表)

(2) 日本企業による投資状況等

2006年8月、我が国の現職総理として初めて小泉総理がウズベキスタンを訪問し、カリモフ大統領と首脳会談を行い、両国間でウラン開発について官民で情報・意見交換を行っていくことで一致した。また、同時に、将来のウラン分野の事業を念頭に国際協力銀行 (JBIC) とウズベキスタン対外経済関係投資貿易省との間で業務協力に関する覚書が締結され、11月には、我が国官民ミッションが訪問し、ビジネスフォーラムが開催された。

2007年4月には、甘利経済産業大臣が JOGMEC 等の独立行政法人を率いて訪問し、その際、JOGMEC は同委員会とウラン及びレアメタルの共同探査の実施等に係る覚書を締結した。また、伊藤忠商事が地質委員会とウラン鉱山の共同開発を行うことについて基本合意している。

2007年から、伊藤忠(株)が国営会社 Navoi 鉱山冶金コンビナートを通じてウランの輸入 (300t/年規模) を開始している。

また、2008年7月には、三井物産が、国家地質委員会との間で Zapand-Kokparasskaya 鉱床開発について基本合意に至っている。そして、2008年10月には、双日(株)が、国家地質委員会との間で Chetbertoye 鉱区におけるウラン探鉱について基本合意書に調印した。

なお、2008年8月には、日・ウズベキスタン投資協定が署名されており、この協定により、現地投資家と同様の投資条件がお互い相手国の投資家にも保証されることになっている。

7. その他トピックス

(1) Techsnabexport 国営公社(露)及び Rusburmash 社(露)

2006年1月、NGMK と Techsnabexport 社及び Rusburmash 社は、NGMK と Kyzylkum 地方の Aktau ウラン鉱床の共同開発を行うことに合意した。2006年後半にも JV をスタートさせる予定であったが、2008年現在、JV は依然交渉中のようなのである。また、ロシア原子力産業の再編に伴い、Techsnabexport 社の役割は、露 ARMZ 社 (Atomredmetzoloto) が引き継いだ。

(2) その他

2008年から2009年にかけて、国家財産委員会は、石炭鉱山、化学プラント、ホテルなど国家財産24件の入札を繰り返し行っているが、入札が競争不十分により不調に終わっている。

(ロンドン事務所 萩原崇弘)